

# ULT通信

あると

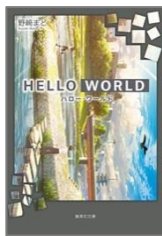
2019.9.18号 / vol. 88 発行 / ULT 図書館司書

2学期最初のULT通信です！ 昨年に引き続き、今年も「映像化作品特集」をお届け！  
これからULTに入ってくるものも含まれます。  
予約しておけば一番に読めますよ！

## ULTで読める！映像化作品特集

2019年

### 映画



『HELLO WORLD』  
野崎 まど



『いなくなれ、群青！』  
河野 裕



『アイネクライネナハトムジーク』  
伊坂 幸太郎



『蜜と塩』  
恩田 陸



『小説 天気の子』  
新海 誠

監督自ら執筆。  
単純なノベライズでも  
原作でもないらしい！

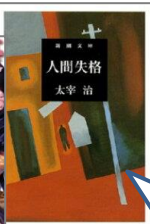


『IT』  
スティーブ・キング

映画『IT “キレ”が  
見えたら、終わり。』  
の原作。



『恋する女医』



『人間失格』  
太宰 治

小説は太宰治の自伝的作品。  
映画は太宰治その人を描く。  
小説と合わせて伝記なども  
読むとより楽しめる！



『閉鎖病棟』  
帯木 逢生

キャストは笑福亭鶴瓶・  
綾野剛・小松奈々！  
山本周五郎賞受賞作。



『カラフル』  
森 絵都

『ホームステイ：ポクと  
僕の100日間』という  
題名で、タイで映画化！

### ドラマ



『ノーサイド・ゲーム』  
池井戸 潤



『ルパンの娘』  
横関 大



『これは経費で落ちません！』  
青木 祐子

## ULT NEWS

### ●10/17 (木) 臨時閉館！

中間テストの1日目、ULTは閉館します。  
教室掲示のULT CALENDARから変更しているのでご注意を！

### ●読書マラソン表彰方法変更！

これまで終業式の全校集会で表彰してきた区間賞は、今後、ULT通信の紙面で表彰します。(イニシャルでお知らせ！⇒) ULT1階の展示もリニューアルしました。参加特典が一目でわかるようになり、賞品の見本も展示！要チェックです！

★ Reading ★ Marathon

50pt  
3年 RK.<ん  
April 11<sup>th</sup>

★ Reading ★ Marathon

25pt  
1年 SH.<さん  
July 2<sup>nd</sup>

# 新着案内

6～8月の新着は219点です。  
一部抜粋で紹介します。

↓シリーズ小説 続巻＆新着！

タイトル	著者	請求記号
八咫鳥シリーズ 弥栄の鳥	阿部智里	913.6-アヘ-6
鹿の王 水底の橋	上橋菜穂子	913.6-ウエ-3
東京バンドワゴン ラブ・ミー・テンダー	小路幸也	913.6-シヨ-12
ホーンテッド・キャンパス 15: 秋の猫は緋の色	榎木理宇	913.6-クシ-15
クレプスリー伝説: ダレン・シャン前史 III	ダレン・シャン	933.7-Sh-3
今昔百鬼拾遺 鬼	京極夏彦	913.6-キヨ-1
怪盗クイーンはサーカスがお好き	はやみねかおる	913.6-ハヤ-1
妖怪の子預かります	廣嶋玲子	913.6-ヒロ-1

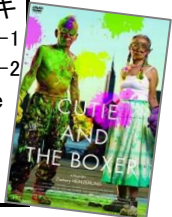


↓スポーツの秋！メンタルを鍛えるには。

タイトル	著者	請求記号
弱いメンタルに劇的に効くアスリートの言葉：スポーツメンタルコーチが教える“逆境”の乗り越え方	鈴木颯人	780.1-スス
成長のための答えは、選手の中にある：選手のポテンシャルを100%引き出すスポーツメンタルコーチング	柘植陽一郎	780.1-ツケ
青学駅伝選手たちが実践！勝てるメンタル	原晋, 根来秀行	780.1-ハラ

DVD がさらに充実。→

タイトル	著者	請求記号
天地明察 [DVD]	滝田洋二郎	778.21-タキ
超高速!参勤交代 [DVD]	本木克英	778.21-モト-1
超高速!参勤交代リターンズ [DVD]	本木克英	778.21-モト-2
キューティー&ボクサー [DVD]	ザッカリー・ハインザーリング	702.16-He
おいしいコーヒーの真実 [DVD]	マーク・フランシス, ニック・フランシス	678.2-Fr
バベルの学校 [DVD]	ジュリー・ベルトウチェリ	371.5-Be
ザ・トゥルー・コスト [DVD]	アンドリュー・モーガン	589.2-Mo



## コラム delite

第88回は高橋が担当です。今月のお題は「異文化」です。

「異文化」と聞くと海外をイメージしがちですが、今回紹介する本は『最後の秘境 東京藝大 天才たちのカオスな日常』です。若干こじつけですが、読み終わった後に「自分の理解の及ばないこんな世界があるのか！」と驚き、とても面白かったので紹介します。



この本は、奥様が藝大生だという著者が、学生への取材を通して、東京藝大の学生生活に迫ったノンフィクションです。詳しい学部学科についてはホームページ等を見てもらうとして、そこで学ぶ内容は芸術全般多岐に渡っています。インタビュー形式なので、とてもリアルな藝大生の実態（の一部）が見えてきます。登場する学生は、口笛の世界チャンピオンやボカロと三味線の融合を試みる三味線奏者、すでに社会に出て稼ぐデザイン科の学生など経歴も様々。幼少期から楽器とともに育ち、日々鍛錬に努める学生がいる一方で、「なぜ作るのか」と自問自答している学生もいます。「楽しいから」「好きだから」ではない「作らざるにはいられない」という感情…。育った環境なのか、本人の生まれ持った感性がそうさせるのでしょうか。想像することしかできません。おもしろエピソードも多いのですが、藝大に学びながら美術への向き合い方に葛藤している学生の姿がとても印象的でした。

この本に出てくる藝大生は、思っていたよりもずっと骨太で、それぞれの得意分野を生かして日々切磋琢磨し、やろうとしていることに強い信念をもっている人達でした。そして、自分の目指すものに向かって突き進む人達の姿にとっても刺激を受けました。毎年9月初旬には学園祭である「藝祭」が行われます。本の中でも触れられていますが、とてつもない熱量のイベントのようです。今年は行けなかったのですが、来年こそぜひ見たい！

次回のテーマは「日本文化」にします。